

情報は、いのちを守るもの。

津波警報が聞こえなかった
 命を守る情報に格差があってはならない

東日本大震災の11日後に宮城を訪れ、2年4ヶ月かけて取材。
 一般のテレビや新聞で報道されなかった
 聞こえない人たちの現状を伝えるドキュメント。

**ろう映像作家
 今村彩子監督来る！**
 上映会 ①11:00~ ②14:00~
 講演会 12:30~

2014年 ドイツ・フランクフルト 日本映画専門映画祭映画祭上映
 2013年 イタリア・ローマ CINEDEAF映画祭招待上映



2014年 10月25日(土)開催
 2014年度創造祭特別企画 防災を考える集い

架け橋 上映会&防災講演会
 きこえなかった3.11



架け橋 きこえなかった3.11 2013年/音声日本語・日本語字幕/74分

監督/今村 彩子 撮影/今村彩子・渡辺佳宏・柳喜代子・古川元・7fish 協力/全日本ろうあ連盟・日本障害フォーラム・宮城県立聴覚支援学校
 後援/東京都聴覚障害者連盟 制作・著作/CS障害者放送統一機構「目で聴くテレビ」
 架け橋 きこえなかった3.11公式サイト <http://studioaya.com/kakehashi>



東日本大震災が起きた時、津波警報が聞こえなかったために亡くなった人たちがいた。耳の聞こえない人たちだ。ろう・難聴者は、外見は障害のない人と同じだが、警報や避難放送などの情報を得にくい。災害時には更に弱い立場に立たされる。

この映画の主人公の小泉正壽さんは、耳が聞こえない。自動車の整備の仕事をして、宮城県ろうあ協会の会長を務めている。小泉さんは被災したろう者の支援や情報格差をなくそうと東奔西走する。休む暇もなく活動を続けたため、脳梗塞で倒れ、歩くことさえも困難になり、入院する。しかし、早く元気になって皆のところに戻りたいと地道なハピリを続け、再び会長として皆のもとへ帰ってきた。

自身も耳が聞こえない今村彩子が地震の11日後に宮城を訪れ、2年4ヶ月かけて取材した渾身のドキュメンタリー。



社会には耳の聞こえない人に限らず、障害のある人たち、在日外国人など、災害下で情報弱者となってしまう人たちがいます。防災情報はすべての人たちに正しく迅速に伝えられなければなりません。そのためにはまず、この社会には様々な背景をもった人たちがいるということを知ることから始まります。ひとりひとりが自分とは違う立場の人たちともつながると地域の絆が生まれ、災害が起きた時、身近な人の命を守ることが出来ます。

津波警報が聞こえなかった



映像作家 今村 彩子(いまむら あやこ)
 大学在籍中にカリフォルニア州立大学ノースリッジ校に留学し、映画制作を学ぶ。二十歳からドキュメンタリーを撮り続け、全国各地で上映・講演活動を展開中。「珈琲とエンピツ」(2011)は好評で全国の劇場で公開された。

今村彩子公式サイト <http://studioaya.com>

豊橋創造大学 2014年度創造祭特別企画 防災を考える集い

映画「架け橋 きこえなかった3.11」上映会 & 防災講演会

日時 平成26年10月25日(土)

時間 ①上映会 11:00~12:20 ②今村彩子監督講演会 12:30~ ③上映会 14:00~15:20

会場 豊橋創造大学 B1 4教室

入場料 無料 ※事前申込不要

主催 豊橋創造大学手話サークル「しゅわっち」/ 救命救急サークル「チームQQ」

協力 豊橋手話通訳学習者の会

同時開催 救命救急(AED)体験講座 / 炊き出しカンパ鍋